2022 年度事業 進捗報告書（実行団体）

● 提出日　：　２０２２年１０月１４日
● 事業名　：　Change Maker Study Program～地域社会を担ってきた住民と外部の大学生の交流による地域活性化事業～
● 資金分配団体　：　一般社団法人 RCF
● 実行団体　：　特定非営利活動法人 SET

1　　実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
1 度 CMSP により訪れた若者が、継続的に地域に関われる状態	CMSP 参加者の内、 ・次期 CMSP 運営スタッフ割合 ・上記以外で地域で活動する割合	CMSP 参加者の内、 ・次期プログラムスタッフが 4 割 ・上記以外で継続的に地域で活動する人が 2 割 いることを目指す	2022 年 4 月	＜2021/4 ~ 2022/3＞ CMSP 参加者内、 ・次期 CMSP 運営スタッフ割合：**約 3 割** - 21 夏季(2021/4~9)：27.8%（5 名/18 名） - 22 春季(2021/10~3)：32.2%（10 名/31 名） ・上記以外で継続的に地域で活動する人の割合：**約 1 割弱** - 21 夏季(2021/4~9)：5.6%（1 名/18 名） - 22 春季(2021/10~3)：9.7%（3 名/31 名） ※前年度は、1 週間のオンラインプログラムのみの実施であったが、陸前高田との関わりを経て、今年度のプログラム運営スタッフになるメンバーが 3 割程度いた。現地での活動が行えなかったとしても、地域や地域住民、活動を行う大学生などとの温かな人との関わりを創出することで、地域の継続的な関係人口の創出に繋がっている。 ＜2022/4 ~ 2022/10＞ CMSP 参加者内、 ・次期 CMSP 運営スタッフ割合：**？** - 22 年度(2022/6~2023/1)：**??%** -	2

				※現在、17 名が運営スタッフで、11 月中旬までに 36 名~45 名の参加者を募集予定であり、前年度の活動の改善点を踏まえ、現地での交流を第一としたプログラム変更を行った。そのため、参加者のうち次期運営スタッフとなる割合の向上は十分見込めると思われる。 ※前年度の継続率と変化ない場合でも、36 名~45 名の参加者を募った場合、継続してプログラム運営スタッフになる学生は 11 名~14 名いる想定であるため、その他スタッフ継続や新規参入なども含めると、事業としては十分限継続可能人数である。より継続率向上のためもコーディネーター中心に学生定着の施策を継続して行っていく。 ・上記以外で継続的に地域で活動する人の割合：**?** - 22 通年(2022/6~2023/1)：**??%** ※参加者のうち、CMSP 以外で地域に関わる関わりしろを検討中。特に SET のコミビジや民泊、CMC などとの関わり方を創出する予定である。 ※現時点では、前年度以上に現地での活動が行えている点と、他事業部との連携が進んでいるため、上記の数値目標には着実に近づいている。	
地域の中で地域外から来る学生と交流し CMSP で活動してくれる人が地域の中に増える状態	CMSP の活動に関わる地域住民の人数	CMSP の活動に関わる地域の人が、プログラム実施地域（現状広田、小友、矢作）の人口の 1 割を超える ※人口は広田町約 3000 人、小友町約 1900 人、矢作町約 1400 人	2022 年 10 月	＜2021/4 ~ 2022/3＞で実施したプログラムに関わった住民の数 ・広田町：**17 人（0.5%）** ・小友町：**18 名（0.2%）** ・矢作町：**17 名（1.2%）** ※前年度の活動のほとんどがオンラインだったため、大学生と地域住民との交流が困難であった。 ＜2022/4 ~ 2022/10＞で実施したプログラムに関わった住民の数 ・広田町：**22 名（0.7%）** ・小友町：**23 名（1.2%）** ・矢作町：**39 名（2.8%）** ※今年度では各地区で 2 回の現地訪問を実施し、上記人数の地域住民と交流。残り 2 回の現地訪問の中で、より多くの地域住民へ本プログラムの理解浸透を進めていく。 ※関わった住民の定義として、ビラをお渡して本プログラムの活動を周知した人など直接的な関わりであったが、お名前を聞けなかった方、関わった地域の方から家族等の親密な関係の方への間接的な理解浸透もされているため、×2~3 倍の方との関わりが生まれ始めていると考える。	2

地域内経済循環を生み出すための取り組みが、関係人口（地域外の若者）などと連携しながら生まれ始めている状態	CMSP を通して生まれる、資金の流れを地域内で循環させる取り組み数	CMSP を通して生まれる、資金の流れを地域内で循環させる取り組み数が、広田で 3 つ以上生まれている	2022 年 10 月	＜2021/4 ~ 2022/3＞ 資金の流れを地域内で循環させる取り組み数：**0 個** ※前年度は、1 週間のオンラインプログラムのみの実施であり、地域でのアクションが出来なかった。 ＜2022/4 ~ 2022/10＞ 資金の流れを地域内で循環させる取り組み数：**0 個** ※現在、12 月に現地でのアクション実行に向けて企画設計中。交流を通じて地域課題の蓄積を行い、地域住民と協議しながら、企画の検討、実行をしていく。 ※前年度は、現地での活動が十分に行えない状況ではあったが、アクションの企画・実行や他事業部との連携や地元漁師との継続的な関係構築により、プログラム以外の関わり方をするメンバーが増え始めている。結果、2021/4 ~ 2022/3 の間でプログラム運営スタッフのうち、4 名が本プログラム以外の関わりで短期滞在しており、地元産業に携わるものや地域おこし協力隊を検討するもの、長期的な移住を検討しているものもいる。 ※結果として、2 名は現在も現地で滞在しており、来年度から移住予定である。	3

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
3. 課題がある
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑ **変更なし** ☐ 短期アウトカムの内容 ☐ 短期アウトカムの表現 ☐ 短期アウトカムの指標 ☐ 短期アウトカムの目標値

5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
2022 年 8 月、第 6 波の感染拡大はあったものの、県からの行動規制等はなかったため、予定通り学生の現地訪問を行った。 学生の現地訪問前には自主的な感染防止を行ってもらい、現地訪問時での地域住民との交流の際には、マスク着用と室内での会話を避けた。また、学生には少しでも体調不良を感じた場合には現地訪問を控えてもらい、感染拡大のリスクを最小限に抑えるよう配慮した。 結果的に、現段階で現地訪問中での感染等は報告されていない。

③　広報（※任意）

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等）

1)　WEB では、ホームページや SNS（Facebook や Activo）を活用して、本事業の参加者募集を行っている。

2)　それ以外では、個々人の SNS（Twitter、Instagram）を活用し、本事業の参加者募集を行っている。

3)　本事業の参加者募集の中で、無料説明会を行う際に休眠預金を活用した事業である説明も行なった。

2.広報制作物等

1)　本事業の参加者募集の中で、ビラを作成し、諸大学のボランティアセンターやサークル活動で配布する予定である。

3.報告書等

1)　活動を通じて出てきた成果物を中心に、冊子等を作成し、地域住民への理解浸透のため、活動実績を配布する予定である。